

⑧ 令和最初の赤十字フェアぎふ作品コンクール開催

令和元年11月2日

加盟校から応募していただいた絵画及び書の「作品コンクール」の表彰式を、イオンタウン大垣で行いました。

応募作品（絵画110点、書2,821点）の中から選ばれた79点の入賞作品のうち、表彰式に参加された方に賞状を一人一人に授与しました。

会場一杯に集まった方々からは、盛大な拍手をいただいたり、授与式後には、自分の作品の前で記念撮影をしたりするなど、とても温かい表彰式となりました。

令和2年度も、数多くの作品の応募をお待ちしております。



▲ 参加者全員で記念撮影

<赤十字フェアぎふ作品紹介>

那加中三年 土屋美結

岐阜県知事賞  
各務原市立那加中学校  
土屋 美結 さん

中央中二年 徳田和

岐阜県議会議長賞  
各務原中央中学校  
徳田 和 さん

岐大附高 三年 家洞知里

岐阜県教育委員会教育長賞  
岐阜大学教育学部附属中学校  
家洞 知里 さん

いつでも思いやり

岐阜県議会議長賞  
瑞穂市立牛牧小学校  
岩田 実那美 さん

愛

岐阜県教育委員会教育長賞  
可児市立帷子小学校  
横田 美乙 さん

岐阜県知事賞  
関市立金竜小学校  
後藤 優美 さん

◆ 県内のJRCへの加盟状況について

岐 阜 県 全 体				
加盟校・加盟園数（全体数）			630	
内	幼稚園、保育園等	46	※	
	小学校 (371校)	361	97.3%	
	中学校 (187校)	169	90.4%	
訳	高等学校 (86校)	32	37.2%	
	特別支援学校 (22校)	22	100.0%	

R1.12.31現在



「青少年赤十字岐阜」

令和2年4月1日発行  
発行・編集 日本赤十字社岐阜県支部  
〒500-8601 岐阜市茜部中島2-9  
TEL 058-272-3561  
<http://www.gifu.jrc.or.jp/>

# 青少年赤十字岐阜

## JUNIOR RED CROSS GIFU 2020

編集・発行 日本赤十字社 岐阜県支部  
Japanese Red Cross Society

〒500-8601 岐阜市茜部中島2-9  
TEL 058-272-3561  
<http://www.gifu.jrc.or.jp/>

赤十字の活動は、皆様からの社資で支えられています

～3つの実践目標～

- 命と健康を大切にする、「健康・安全」
- 社会のため人のために尽くす責任を自覚し、実行する「奉仕」
- 広く世界の青少年を知り、仲良く助け合う精神を養う「国際理解・親善」

## 青少年赤十字の活動の成果、現在の取組、そして未来へ

岐阜県青少年赤十字指導者協議会  
会 長 倉 本 雅 志（養老町立池辺小学校）

令和元年6月に、金沢市で行われた第3ブロック大会と東京で行われた全国指導者協議会総会・研修会に出席させていただく機会を得ました。そこでは、全国各地において、それまでの歴史や地域の実態に則した活発な青少年赤十字活動が行われていることをあらためて実感することができました。日本各地の指導者の方々と成果や悩みを本音で話し合うことはとても有意義な時間でした。各地でさまざまな工夫がなされ大きな成果をあげられており、その成果は確実に目の前の子どもたちの成長に結びつき、未来への架け橋になっていることを再認識することができました。

全国的な視点から見ても岐阜県は、学校の加盟率の高さに加えて、焦点を絞った無理のないスムーズな運営がなされていることが分かりました。日本赤十字社岐阜県支部の方々の、細かな配慮のうえに明確な方向性で活動されていることについて、あらためて感謝の気持ちが湧いてきました。青少年赤十字の態度目標である「気づき」「考え」「実行する」という言葉は、私たちが学校教育の中でめざすことと根本に流れる願いは共通であり、目の前の子どもたちが未来に向けて自信をもって歩んでいくために、大切なキーワードであると感じています。

令和元年は、新しい元号の始まりとともに岐阜県支部の創立130周年の記念すべき年でした。名誉副総裁高円宮妃殿下をお迎えし、すばらしい式典が行われました。名誉副総裁高円宮妃殿下が周りの方々と目を合わされてやさしくほほえまれる姿に、脈々と受け継がれてきた「博愛」「人道」「平和」の願いの尊さを感じました。式典の中で赤十字活動に尽力された多くの表彰が行われましたが、どの方も自分の歩んでこられた功績に対して、自信と誇りに満ちた姿で受賞されていました。

昨今、「society5.0」の言葉を目にすることも多く、それに伴って社会はますます多様な変化を遂げています。しかし、人が人に手を差し伸べて互いに支え合う赤十字の活動は永遠に変わらないことを、さまざまな活動に参加することから確信しました。

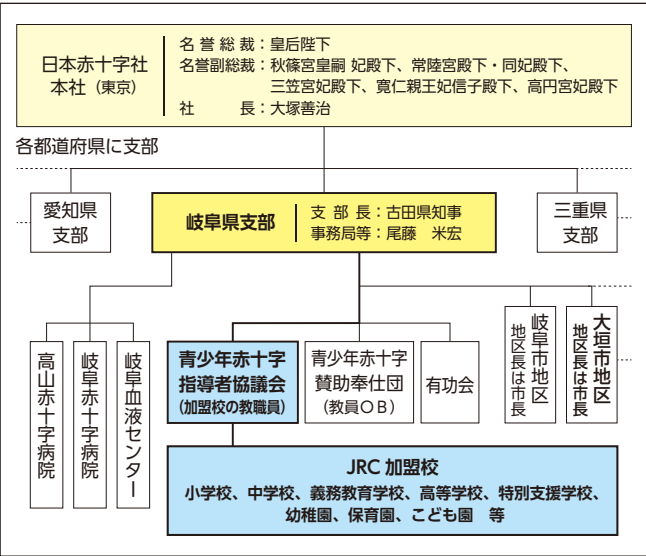
最後になりましたが、細部にわたり温かなご配慮とともにご支援いただきました日本赤十字社岐阜県支部をはじめとする関係者の皆様に心より感謝を申し上げますとともに、今後も、岐阜県の青少年活動がより活発に展開されることを祈念いたします。



# 1 | 赤十字社について

赤十字は、アンリー・デュナン（スイス人：第1回ノーベル平和賞受賞者）が提唱した「人の命を尊重し、苦しみの中にいる者は、敵味方の区別なく救う」ことを目的とし、世界192の国と地域に広がる赤十字社・赤新月社のネットワークを生かして活動する組織です。

日本赤十字社はそのうちの一社であり、1877年の西南戦争をきっかけに佐野常民らが中心になって設立されました。そして、現在では、世界各国の赤十字と手をつなぎ、赤十字の精神である「人道・博愛」の使命を実現するために、主に以下の①～③の柱のもと、国内外における災害救護をはじめとし、苦しむ人を救うために幅広い分野で活動しています。



▲日本赤十字社組織図

- ① いのちを救う 国際活動、国内災害救護活動、医療事業、血液事業、救急講習等
- ② せいかつを支える 社会福祉事業、赤十字奉仕団
- ③ ひとを育む 青少年赤十字、看護師等養成

# 2 | 青少年赤十字 (JRC: Junior Red Cross) について

青少年赤十字は、将来を担う青少年が赤十字のことを理解し、進んで赤十字運動に参加してもらい、青少年の一人一人が世界の平和と人類の福祉に貢献できるように、①「健康・安全」②「奉仕」③「国際理解・親善」の3つを「実践目標」として掲げ、日常生活の中で望ましい「人格と精神」を自らつくりあげることが目的としています。

# 3 | 日本赤十字社岐阜県支部が、青少年赤十字加盟校に対し行っている主な助成金や支援内容



(1) 人材育成・・・JRCの活動を中心となって取り組むことのできる人材の育成。

- ① 教職員対象の指導者講習会
- ② 支部主催や各地区主催のリーダーシップ・トレーニング・センター<sup>(※1)</sup>の実施

(2) 主な活動助成金

- ① 研究推進モニター校助成金・・・学校におけるJRC活動に対する助成金（1校につき10万円 対象25校）
- ② 防災教育推進事業助成金・・・学校における防災教育推進に対する助成金（1校につき20万円 対象2校）
- ③ 地区協議会活動助成金・・・地区単位での研修会、講習会等に対する助成金（1地区につき上限8万円）

(3) 主な活動・支援等

- ① 子ども新聞プロジェクトやモンゴルとの国際交流への児童生徒の参加
- ② 救急法や水上安全法、D I G等への講師派遣（加盟校は無料）
- ③ 「まもるいのち ひろめるぼうさい」「いえまですごろく」、図書、テント等の教材教具の無料提供
- ④ 赤十字フェアぎふ作品コンクールへの作品募集

※1 「リーダーシップ・トレーニング・センター」とは、集団生活や活動を通して児童・生徒が周囲の状況を踏まえ、自分がどのように行動すると良いか「気づき・考え・実行する」力を育むもので、青少年赤十字の最も特徴的な教育プログラムです。

# (1) 人材育成関係の実績報告

## ① 支部主催のリーダーシップ・トレーニング・センター

令和元年7月24日

岐阜県支部が主催するリーダーシップ・トレーニング・センターとして、県内の小中学生を対象とした支部トレセンを実施しました。

トレセンでは、岐阜地方気象台の職員の皆さんから気象や地震のメカニズム等を教えていただいたり、自分で地震に強い構造物の模型を作ったりしながら、災害に対する知識を深めました。また、血液センターでは、血液型を調べる実験をしたりセンター内の見学や、献血の説明を聞いたりしました。

また、いざという時のためにハイゼックスの袋を利用して、自分が食べる昼食を作る活動も行いました。



▲地震の揺れに強い建物を作るぞ！



▲ハイゼックスの袋を使ってお昼ご飯づくり



▲これが血小板なんだ。赤くないね。

## ② 各地区で行われたリーダーシップ・トレーニング・センター

<揖斐地区>

令和元年7月26日

池田町中央公民館において、揖斐郡の小中学校の児童生徒47名が参加しました。

子どもたちは学校紹介をしてから、レクリエーション講習会・いのちの授業を受講しました。自校に戻ってリーダーとして活躍するための充実した研修となりました。



▲レクリエーションでアイスブレイク



▲いのちの授業風景



▲三角巾を使った傷の手当ての練習風景

## ③ JRCリーダーシップトレーニングセンター指導者養成講習会（本社主催） JRC指導者中央講習会（本社主催）

令和元年5月24日～26日

令和元年11月23日

岐阜県の青少年赤十字指導者の代表としてそれぞれの会に参加していただきました。

- ・養成講習会では、実際にトレセンを体験しました。全国から集まった先生方との親交も深まりました。
- ・中央講習会では、いじめ問題の解決のためにJRCがいかに関われるかなどの研修を行いました。いずれも大変有意義な研修が行われました。



▲養成講習会の様子



▲中央講習会の様子



(2) 活動助成関係等の実績報告と令和2年度の指定校

① 青少年赤十字新規加盟校へのテント贈呈 令和元年7月19日

防災対策の強化や学校行事に活用していただく事を目的に、平成30年度に新規加盟いただいた学校（園）に対して、ワンタッチテント（3m×3m）を贈呈しました。  
新規加盟校（90校）を代表して、関市立安桜小学校にて贈呈式を行い、大変喜んでいただきました。



▲尾藤事務局長から目録を受け取る児童

② 岐阜県支部創立130周年記念大会 令和元年9月26日

日本赤十字社岐阜県支部創立130周年を記念して、日本赤十字社名誉副総裁 高円宮妃殿下をお迎えし、長良川国際会議場において大会を開催しました。  
式典では、JRCに長年加盟いただき、JRC活動に積極的に取り組んでいただいた学校に対し、有功章や感謝状を授与いたしました。代表で、各務原市立緑陽中学校の磯谷浩二校長先生が高円宮妃殿下から金色有功章を賜りました。



▲高円宮妃殿下から金色有功章を賜る磯谷校長先生



▲ストレッチャーでの避難の様子を参観される高円宮妃殿下

その後、JRC加盟校の県立大垣桜高校に「あこがれの赤十字」を合唱していただき、式典後のアトラクションでは、同じく加盟校の県立岐阜商業高校にプラスバンドの演奏をしていただきました。また、高円宮妃殿下には、JRC加盟校である県立岐阜希望が丘特別支援学校の授業風景や、避難訓練の様子をご参観いただきました。

③ 令和2年度 岐阜県青少年赤十字防災教育推進校の決定

日本赤十字社岐阜県支部では、青少年赤十字の実践目標の一つである「健康・安全」のもと、防災教育を通して学校、家庭、地域社会における防災意識を高め、人間のいのちと健康、尊厳を守ることを目指しています。  
その達成に向けて、「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用しながら、防災教育の発展・普及のため、先進的な取り組みを実践する学校を推進校に指定し、活動支援をします（1校20万円の助成金）。  
令和2年度の推進校は、次の2校です。

山県市立伊自良南小学校	学校・家庭・地域の三者で学び合い、気付き、考え、実行する防災学習
大垣市立青墓小学校	自分の命は自分で守る。校区内の危険箇所を知り、危険から身を守る。怪我をしても自分で応急処置ができる児童を育てる。

④ 令和2年度 岐阜県青少年赤十字研究推進モニター校の決定

本事業では、青少年赤十字の実践活動の「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」に関わる様々な魅力ある活動が、加盟校においてさらに充実していくことや、県内に広まっていくことを願い、岐阜県支部では、毎年加盟校の中から研究推進モニター校を募集し、認定した25校に各10万円の活動助成金を交付し、各学校から大変好評を得ています。  
令和元年12月2日～令和2年1月17日の期間、令和2年度のモニター校を募集し、県下から58校の応募がありました。「できるだけ多くの学校にモニター校としての取組をしていただくこと」「青少年赤十字の3つの実践目標と関わっていること」「校種や地域のバランスを勘案すること」等に留意し、岐阜県青少年赤十字協議会役員、賛助奉仕団の皆さんに検討していただきモニター校として、次頁のとおり指定させていただきました。  
新規加盟校や応募校の増加のため、令和2年度からは25校を指定させていただくこととしました。

※ 防災教育推進校やモニター校の実践、キックオフの会は、年度毎に「活動事例集」としてまとめ、日本赤十字社岐阜県支部のホームページで公開をしていますので、ぜひご覧ください。

令和2年度 モニター校

No.	学校名	テーマ
1	岐阜市立長良小学校	自らの歯や口腔の健康課題解決に向け、実践できる子の育成
2	羽島市立竹鼻小学校	一人一人に奉仕の心を育み、健康で安全な生活をしようとする意欲を高めるための指導や援助の在り方
3	各務原市立那加第二小学校	大切にする命と絆
4	瑞穂市立中小学校	自分達が思い描く「中小サロン」を運営することを通して、高齢者の方と関わることの喜びを味わう
5	大垣市立中川小学校	英語でのコミュニケーション能力を伸ばし、国際社会で活躍できる児童の育成 ～英語教育と国際理解教育を通して～
6	大野町立大野小学校	「自分の命は自分で守る」を合言葉に、自他の命を大切にし、守り切ることのできる児童の育成
7	組合立養基小学校	・家庭や地域と連携し、実践活動を通して「命や健康」を大切にすることを育成する。 ・自ら考え、その場の状況に応じた判断をして、命や健康を守ることができる。
8	関市立金竜小学校	全校で取り組む歯と口の健康づくり
9	美濃加茂市立山之上小学校	「自分の命は自分で守る」を合言葉に、様々な人的自然災害に対処できる力を育てる。また、PTAでも「ふるさとと共に高まる」を合言葉に、地域とのつながりや協力を大切に、家庭や地域との連携を図る
10	七宗町立神淵小学校	豊かな心を持ち、自ら考え、進んでやりぬく子の育成 ～相手を思いやり、温かい人間関係を築くために～
11	白川町立黒川小学校	自ら考えて行動し、自分の命は自分で守ることができる子の育成 ～毎月の命を守る訓練を核に、PTAとも連携した防災学習～
12	土岐市立濃南小学校	食の重要性を理解し、豊かな心と健康な体づくりに意欲のもてる子の育成 ～栄養教諭とのコラボ授業を通して～
13	中津川市立西小学校	主体的に地域とかかわり、地域福祉に貢献できる子をめざして
14	中津川市立加子母小学校	自分で守ろう健康と安全
15	高山市立山王小学校	自分で考え、自分のからだ、生活を守る
16	高山市立国府小学校	みんながともに生きる国府町をつくろう ～福祉や防災を学ぶことをとおして地域とつながり、わたしたちにできることを考える～
17	下呂市立尾崎小学校	地域や保護者とのつながりを大切にしたコミュニティー・スクールの運営
18	下呂市立上原小学校	模擬体験や地域の方々とのふれあいを通して福祉について気づきを大切に、自分たちで考えて行動する態度を育てる
19	岐阜市立陽南中学校	地域との関わりの中で、防災について、私たち中学生にできることを考えよう
20	大垣市立赤坂中学校	生涯にわたって主体的に健康づくりができる生徒の育成 ～人生100年時代を生き抜く土台作り～
21	土岐市立肥田中学校	健康な心と体のために自己管理できる生徒の育成
22	恵那市立東中学校	防災活動を核とした、地域コミュニティとの協働による地域社会人の育成
23	中津川市立第一中学校	自他の命を守り、地域社会に貢献する青少年の育成 ～地域と連携した防災教育を通して～
24	各務原市立各務原特別支援学校	個々の能力・特性に応じた自立における防災学習
25	岐阜県立郡上特別支援学校	地域に根ざした生活を目指して ～「主体的・対話的な深い学び」の礎づくり～

<キックオフの会>

キックオフの会では、研究推進モニター校や防災教育推進校になったことをきっかけに、子どもたちに赤十字や青少年赤十字の具体的な目標や、自分たちはどのような活動に取り組みばよいのか等を、校長先生や担当の先生からお話をしていただき、青少年赤十字への意識を高められるようにすることを願っています。その結果、令和元年度は、約 5,000 名の子どもたちが JRC について考えるきっかけをもつことができました。



◀キックオフの会のコマ



③ 活動支援関係の実績報告

① 子ども新聞プロジェクト ～子ども記者が被災地の いまを取材～ 令和元年7月13日～15日

現役の新聞記者から、取材方法や記事の書き方の指導を受けた子ども記者（岐阜県JRCからは2名参加）が、自然災害の被災地に出かけ取材をしました。

令和元年度は、北海道胆振東部地震で被災した厚真町、安平町などで取材活動を行いました。子ども記者が、一生懸命に取材してきた内容を、夜遅くまで話し合って作成した記事が掲載された「子ども新聞」は、9月中旬に岐阜県、愛知県、三重県の加盟小学校のすべての児童に配布されました。

令和2年度も、小学校6年生対象に、このプロジェクトへの参加募集を行う予定です。



▲牧場の被災状況を詳しくお話をしていただく

② モンゴル国の赤十字メンバーとの国際交流・親善 令和元年7月29日～8月3日

岐阜県支部では、国際理解と親善を目的に、愛知県支部の青少年赤十字メンバーと共にモンゴル赤十字社との交流を行っています。

令和元年度は、岐阜県のJRC加盟校の中から選ばれた中学生2名と愛知県支部の8名がモンゴル国を訪問し、ゲルに泊ったりホームステイをするなどモンゴル赤十字社のメンバーと交流を行い親交を深めることができました。

令和2年度は、9月にモンゴルメンバーが訪日予定です。愛知県美浜自然の家を中心に、親善を深めます。このプロジェクトへの参加募集を、中学生対象に行う予定です。



▲モンゴル国会議事堂前でモンゴルメンバーと共に

③ 救急法や水上安全法、災害図上訓練（DIG）等への講師派遣

小学校高学年の児童や中学生の防災意識を高めたり、周囲の小さな子どもたちを率先して引き連れ安全な場所へ避難できるようにしたりする事を目的として災害図上訓練の指導を行っています。

また、水の事故から人命を守るため、泳ぎの基本・水難事故防止・人工呼吸などを学んだり、海や川など着衣のまま水から自分の生命を守ることができるようにするための訓練等も行ったりしています。

指導に当たっては、専門の訓練を受けた日本赤十字社岐阜県支部の職員やボランティア指導員等が学校に出向き、無料で指導を行います。



▲自分の住んでいる場所の危険場所を知ろう。

④ 幼稚園・保育所等向け 新防災教材「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」教材教具の無料提供

○「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」の整備

今まで園児は“先生から守られる”存在でしたが、この教材で学習し、園児が自ら判断し、「自分の命は自分で守る」ことが出来るようになることを期待しています。



▲ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！（写真 日本赤十字社提供）

⑤ 青少年赤十字の防災教育について

平成27年度～



青少年赤十字では、防災教育を通じて青少年の健康と安全を守り、学校、家庭、地域における防災意識の向上を目指す「青少年赤十字防災教育事業」に取り組んでいます。

最近、日本各地で自然災害が起こっています。そういった災害に備えるためには、未来を担う子どもたちこそ、正しい災害の知識を伝え「自分の命は自分で守る」という防災の意識を高めてもらうことが重要です。

そのため、防災に有効な専門的な知見を数多く有している気象庁とも連携し、「いのちの大切さ」や「コミュニケーション力」を養うことのできる防災教育プログラム（教材）「まもるいのち ひろめるぼうさい」を小中高の教員と共に制作しましたのでご活用ください。

平成27年度に、すべての学校に1冊ずつ配布済ですが、さらに必要な場合は、日本赤十字社岐阜県支部まで、お問い合わせいただければ無料で提供させていただきます。

⑥ 岐阜県赤十字有功会から加盟校へ図書贈呈

令和2年2月20日

子どもたちに豊かな心を育んでもらうことや、赤十字について知ってもらうことを目的として、岐阜県赤十字有功会から青少年赤十字加盟校630校の内、令和元年度贈呈対象校77校に図書を贈呈しました。

令和2年2月20日、県内受領校を代表して新規加盟校の高山市立山王小学校で贈呈式が行われ、図書委員長の羽田希実さん（6年）と副委員長の岩久温果さん（6年）に、有功会を代表して医療法人薫風会 理事長 高桑薫様から図書と図書券が贈呈されました（贈呈本 「ポーランド孤児を救った日本赤十字社」）。

代表の児童からは、「私たちは本が大好きなので、とても嬉しいです。みんなで楽しく読みます。大切にします。」とお礼の言葉がありました。



▲図書の贈呈（高山市立山王小学校 校長室）



▲小学校に贈呈

▲中・高・特別支援学校に贈呈

⑦ 募金活動（海外助け合い）

令和元年12月7日、14日

JR岐阜駅北口で岐阜総合学園高校と岐阜農林高校の青少年赤十字メンバーが、NHK海外たすけあいキャンペーンの募金活動をボランティアで実施してくれました。

冬空の下、紛争や災害、病気で苦しむ人びとを救うため、大きな声で募金の協力を呼びかけ、大勢の方の協力を得て、2日間で、25,377円の募金が集まりました。

メンバーたちは、この活動を通じ、世界中の人と支え合う事の大切さを感じていました。



▲「ご協力お願いします」



▲「ご協力ありがとうございました。」